

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校舎コード (代表者校舎の市費コード)
571189

代表者	校 園 名 :	弁天小学校
	校 園 長 名 :	光井 栄雄
	電 話 :	6573-5812
	事 務 職 員 名 :	食野 直哉
申請者	校 園 名 :	弁天小学校
	職 名 ・ 名 前 :	教頭・山田 武志
	電 話 :	6573-5812

### 令和8年度「がんばる先生支援事業」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (2年目)
2	研究テーマ	データで見取る個の特性アセスメントと一人一人が輝く協働的な授業づくり ～教育DX:客観的な見取りを生かしたSociety5.0を生き抜く子どもの育成～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>AIの急速な発達により大きく変わりつつある社会 (Society5.0) を生き抜く子どもを育成するにあたって次の点について研究を進めたい。</p> <p>1. デジタル教材を活用した児童の個の特性の見取り (「働き方改革」を意識した客観的データを「個の特性の見取り」に生かすアセスメントづくり)</p> <p>2. 教育DXによるデータに基づく客観的な「子どもの個の特性の見取り」を生かし、Society5.0で求められる「協働する力 (総合的読解力)」「学び続ける力 (探求)」の育成に向かう授業づくり</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>研究の方向性 <b>基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</b></p> <p>生成AIの急速な発達により、働き方も大きく変化してきており、社会を生き抜くために必要な力も大きく変わってきている。「社会を生き抜く力の育成」として「画一的なスキル」ではなく「個の特性を活かしあうコラボレーションスキル」の重要性は教育振興計画においても明示されており、社会の変化や求められるスキルの変化」に合わせた授業改革は急務であると考え。このことから考えても効果的な授業改革を行うためには、授業づくりにおいて「個の特性の見取り」は重要視されるべき観点である。</p> <p>教員の個の特性を見取る力は経験の差に大きく左右される。大阪市における教員の経験年数の分布からもわかるように「見取る力」の弱さにもつながっている。また、「児童の見取り」も見取る教員の主観に左右される部分が多い。経験年数の浅い教員の多い現状においては「見取り力」の向上は喫緊の課題であり、デジタル教材を活用した客観的なデータに基づく「見取り」方のアセスメントづくりは新しい学力観をもとにした授業づくりを行う上でも、高い汎用性のある効果的な研究になる。さらにその研究成果は、学校全体としての取り組みを行う上での指標として扱うことができ、他の学校全体としての取り組みへも波及するデータとすることができる。</p> <p>また、一方で「教育DXの推進による働き方改革」も重点の一つにあげられていることから、デジタル教材を生かした「個の見取りのあり方は」これからの大阪市がめざす「質の高い教育と働き方改革の両立」において、価値ある研究となりえると考え。本研究において使用する「コグトレオンライン」は認知カトレーニングのデジタル教材とされているが、トレーニングとしての活用はもちろんのこと、児童の学習状況が自動でデータ化される。そのデータを活用することで、このデータを生かした客観的データに基づくアセスメントの作成することで、「視覚優位」「聴覚優位」「立体認知」「読み対するの課題」など、個の特性を容易に見取ることができると考えられる。客観的なデータからの見取りをもとに、タブレット端末を学習プラットフォームとすることで、「読み書きに特性のある児童」へは、読み上げ機能や、音声入力機能などを効果的に活用したり、「図形認知に特性のある児童」へは、動画を活用した補助教材を用いたりするなど、個の特性をもとにした個別支援ができると考える。例えば、道徳など「考える」「話し合う」ことに主を置いた授業づくりにおいては「読み書きに特性のある児童」は読み上げ機能や音声入力機能を活用できるようにすることで、苦手なことに主たる目的 (めあて) に迫ることができると考える。また、算数科の学習では、図形の認知に特性のある児童は、教科書のQRコードを読み込むことで活用できるデジタルコンテンツなどを活用し、視覚的にわかりやすく考えることができると考える。このようにデジタル教材のデータからのアセスメントをもとにした「個の特性」の見取り、そしてその「個の特性」を意識した個別最適化された授業デザインの経験は、従来の一斉型授業ではなく、個の特性を生かし、コミュニケーションを重視した協働力を育む授業デザインにつながると考える。授業デザインを見直す意識は「総合的な読解力の育成」「学び続けられる探求心の育成」に重点を置く、新しい授業デザインへの移行にも生かされ、若手の多い本校においても、教員の資質として最も重視されるべき、「児童の見取り力」「新しい学力観に基づく授業力」の向上につながり、そのことが変化著しいSociety5.0において「生き抜く力」の育成につながると考えている。</p> <p>(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度の実践を通して、教員は本校の「学びにくさ」が見られる児童に対して、「コグトレ」が一定の効果を示していることを実感した。研修では「コグトレ」が「行動抑制力 (がまんする力)」にも効果があることを学び、本校児童の実態から生じる課題と一致していることも確認できた。</p> <p>そこで2年目となる本年度は、昨年度の研究成果の経年検証に加え、「コグトレオンライン」マネージャー機能を用い、モジュール学習時間を学びの場として、アセスメントに基づくデータ検証を進めていく。</p> <p>さらに、代表者が「算数障害」や「愛着障害」など本校児童の学びの土台にある課題についての研修会に参加し、伝達研修を行うことで、より多様な児童の個別最適化学びの場の構築についても研究を進めていく。</p> <p>加えて、大型モニタとのワイヤレス接続環境を整えることが児童が特性に応じてコミュニケーションをとることができるようになることを考え、環境整備により児童一人一人の考えの可視化や対話力の向上が促され、個別最適化された学びにつながることを検証も進めたい。</p> <p>このような、児童用端末とシステムを活用した「児童の個性の見取り」や「環境整備」は、教育DXや働き方改革にもつながり、大阪市教育振興計画に沿った先駆的な研究になると考える。</p> <p>(3)継続研究 [3年目]</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 【研究企画会】 研究テーマの設定と研究の進め方、見込まれる成果について検討する。 【研究推進委員会①】 ・研究内容の確認と本年度の研究の焦点を絞る。 ・年間計画を立案する。 ・検証用児童アンケートと教員アンケートの作成する。</p> <p>5月 【研究全体会①】 オンデマンド開催により年間計画並びに研究焦点の共通理解を図る。 【研究推進委員会②】 ・児童アンケート（事前）、教員アンケート（事前）の実施・分析</p> <p>6月 【全体研修会①】 コグトレオンライン活用研修 【授業研究会①2年】（研究協議会・指導案検討会）</p> <p>7月 【全体研修会②】 コグトレオンラインアセスメント研修 講師 コグトレ学会理事 井阪幸恵 先生 【授業研究会②6年】（研究協議会・指導案検討会）</p> <p>8月 【コグトレワークショップ（初級編）（中級編）参加】 【JDDRA第5回研究大会（「算数障害」に関する研究大会）参加】 【実践に活かすアタッチメント理論（「愛着障害」に関する研究大会）参加】 【夏の全国算数授業研究大会、第89回国語教育全国大会参加】</p> <p>9月 【授業研究会③4年】（研究協議会・指導案検討会） 【授業研究会④3年】（研究協議会・指導案検討会）</p> <p>10月 【授業研究会⑤5年】（研究協議会・指導案検討会） 【研究推進委員会③】 学術集会・ワークショップの伝達講習に向けた資料作り</p> <p>11月 【日本COG-TR⑥会学術集会（大阪）参加】 【ICT×インクルーシブ教育セミナー参加】</p> <p>12月 【授業研究会⑤1年】（研究協議会・指導案検討会） 【全体研修会③】 学術集会・ワークショップの伝達講習会 【研究推進委員会④】 研修成果報告用伝達講習の資料の作成とwaku×2com-beeへのアップ</p> <p>1月 【研究推進委員会⑤】 児童アンケート（事後）、教員アンケート（事後）の実施・分析 研究発表資料作成 【がんばる先生支援 研究発表会】 研究協議 指導助言 コグトレ学会理事 井阪幸恵 先生</p> <p>2月 【研究推進委員会⑥】 がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月 【研究推進委員会⑦】 研究のまとめの作成とWAKU×2Com-Beeへのアップ 【研究全体会②】 オンデマンド開催による本年度の活用し課題の共通理解</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本COG-TR学会学術集会」に参加し、コグトレに関する情報収集を行い、研究に活かす。</li> <li>・「コグトレワークショップ（初級編）」に参加し、研究の核となるトレーナーを育成する。</li> <li>・「コグトレワークショップ（中級編）」に参加し、コグトレのアセスメントについての見識を深め、研究に活かす。</li> <li>・全体研修会の講演 講師 コグトレ学会理事 井阪幸恵 先生</li> <li>・研究発表会の指導助言 講師 コグトレ学会理事 井阪幸恵 先生</li> </ul>
		<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。 <b>理由</b> 昨年度の研究をもとにアセスメントを取りながら経年にわたって、成果を検証するため</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</u>」の育成および、「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>コグトレオンラインのアセスメントを活用することで、データをもとにした個の特性（聴覚、視覚の優位性や図形認知力など）の可視化が客観的に行え、個の見取りにかかる時間を短縮することができる。また、客観的な資料を活用した個の特性の見取りを活用することによって、ICT機器の活用（音声入力機能や読み上げ機能、デジタル教材の活用）など一人一人の特性が生かされた個別最適化された授業づくりができるようになる。</p> <p>《検証方法》 教員アンケート「コグトレオンラインを活用して、児童の個の特性を見取りを可視化することは授業づくりに生かすことができると思いますか」「コグトレオンラインのアセスメントを確認することで個の特性（聴覚や視覚の優位性や図形認知力など）を見取ることができましたか」「個の特性の見取りを個別最適化に向けた授業づくりに生かすことができましたか」という3項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>本年度の研究教科である算数科において、デジタル教材「コグトレオンライン」を活用した児童の個の特性の見取りは個別最適化された授業づくりにつなげることで、子どもの算数科における学習意欲を高めることができる。</p> <p>《検証方法》 児童アンケートの「算数の授業は好きですか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を前年度（75.5%）より向上させる。 算数科児童アンケート（高学年）の「いろいろな考え方の中から自分にあった考え方で考えることができますか」の項目において期初アンケートよりも年度末アンケートでの肯定的な回答の割合を向上させる。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	

<p>6</p>	<p>見込まれる成果とその検証方法</p>	<p><b>【見込まれる成果3】</b>  <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上                  個の特性の見取りを活かし、協働的な学びを意識した授業デザインを行うことで、総合的な読解力を高められる授業づくりが行えるようになる。</p> <p>《検証方法》                  児童アンケートの「友達の意見を聞いたり、自分の考えと比べたりして発表することができる」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。                  朝日小学生新聞デジタル for schoolの「天声こども語 読解クイズにチャレンジ」の正答率が当初の5月の平均よりも1月の平均が高まる。</p> <hr/> <p><b>【見込まれる成果4】</b>  <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>《検証方法》</p>						
<p>7</p>	<p>研究成果の共有方法</p>	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="462 817 1573 894"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 1 月 27 日</td> <td>場所</td> <td>弁天小学校多目的室 ハイブリッド (Teams)</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 wakū<sup>2</sup>.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="462 988 1080 1065"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 2 月 19 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 9 年 1 月 27 日	場所	弁天小学校多目的室 ハイブリッド (Teams)	日程	令和 9 年 2 月 19 日
日程	令和 9 年 1 月 27 日	場所	弁天小学校多目的室 ハイブリッド (Teams)					
日程	令和 9 年 2 月 19 日							
<p>8</p>	<p>代表校園長のコメント</p>	<p>1. 新規研究（1年目）                  大阪市の現状として、若手教員の育成は今日的な重要課題の一つである。本校の年齢構成からベテラン教員への校務負担も多く、「働き方改革」と「若手教員の育成」の両立は容易ではない。「個の経験」が大きくものをいう「児童の見取り」にデジタル教材を活用するといった本取り組みは「教育DX」を進める大阪市の方針ともマッチしており、その効果が検証されれば、本校と同じような年齢構成である多くの学校においても汎用性の高い研究成果となると考える。                  また、デジタル教材のデータを活用したアセスメントの在り方の研究は年々難しくなっている情報過多で多様化してきている社会で育ってきた子の「見取り力」の向上についても役立ち、その見取り力の向上は、個別最適化された授業デザインにつなげられる今日的課題解決に向けた研究であると考えている。</p> <p>2. 継続研究（2年目）                  昨年度の実践を通して、本校では「コグトレ」を中心とした個別最適化に向けた重要項目でもある「児童の見取り」において、「コグトレ」が有効に機能するという実感を学校全体で共有することができた。本年度の実践では、児童用端末と「コグトレオンライン」を活用し、経験則だけに頼らない、データに基づく深い児童理解へとつながることを、アセスメントをとりながら検証していく。これは、大阪市教育振興計画が最重要課題として掲げる教育DXや働き方改革にも直結する取り組みであり、大阪市全体にとって有益なモデルケースとなりうる研究であると考えている。                  さらに、アセスメントととりながらデータに基づく客観的な児童理解は若手教員の「児童の見取り力」の向上となり、児童理解を元にした授業デザインのできる授業力向上にもつながり、若手教員の育成といった大阪市の今日的課題解決となりうる研究であり、本研究の意義は大阪市全体の教育力向上に寄与するものであるととらえている。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						